



JRI news release

2001年1～3月期GDP統計予測

2001年5月22日

株式会社 日本総合研究所
調査部 経済研究センター

イ) 1～3月期は2四半期連続のプラス成長

2001年1～3月期の実質成長率は、前期比+0.3%（年率換算+1.3%）。

①「日本新生のための新発展政策」（2000年10月発表）の効果発現に伴う公共投資の増加、②「家電リサイクル法」施行前の駆け込み需要の盛り上がりを受けた個人消費の高めの伸びを主因に、2四半期連続のプラス成長となった見込み。

もっとも、企業部門については、昨年末をピークとした調整局面に入っていることが確認される公算大。具体的には、次の2点。

- ①輸出の減勢明確化 … 実質輸出は、海外景気の減速を背景に、8四半期振りに前期比マイナスとなった見込み。とりわけ、欧米向けの自動車のほか、N I E S 向けの電子デバイス・産業機械が急速に冷え込み。
- ②中小企業設備投資の失速 … 海外向けを中心とした需要低迷、それに伴うマインドの慎重化を背景に、大企業対比ロットが小さく、投資計画の修正が比較的迅速に行うことができる中小企業の設備投資は、すでにピークを打った可能性大。実際、中小企業の投資動向と関連性の深い代理店経由の機械受注は、本年3月にかけて4ヵ月連続の前月比マイナス（1～3月期でみれば前期比▲18.4%の大幅減）。

ロ) 2000年度の実質成長率は+1.0%

内閣府は5月17日、1～3月期Q Eにおける公共投資の推計方法の変更を発表。これに伴い、4～6月期値、7～9月期値、10～12月期値も遡及改定へ(*)。

今回の推計方法変更により、2000年4～6月期以降のG D P水準は、下方修正される見通し。すなわち、Q Eにおける4～12月の公共投資（既公表値の名目前年比：▲5.6%）は、公共工事出来高（国土交通省発表、4～12月の前年比：▲7.4%）などからみた実勢対比過大に推計されていた可能性が大きく、遡及改定に伴い下方に水準訂正される公算大。

この結果、2000年度の実質成長率は+1.0%と、1～3月期がプラス成長を記録したにもかかわらず、政府見込み（+1.2%：1月31日閣議決定）に達しなかった見込み。

(*)推計方法変更の背景やその具体的方法については、次の2点をご参照。

・谷本信賢（内閣府経済社会総合研究所）

「最近のG D P統計に対する論調とそれに対する当方の考え方」

（経済企画協会『E S P』2001年3月号）

・内閣府経済社会総合研究所

「1～3月期Q Eにおける公的固定資本形成の推計方法について」

（5月17日発表、U R L : <http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/010517investofg.pdf>）

ハ) 本年度下期にかけ調整色強まる

以上を踏まえて先行きを展望すると、わが国景気は本年度下期にかけ調整色が強まる方向。

①企業業績の増益幅鈍化といった循環的要因に加え、グローバル化、競争激化を背景とした各種構造調整圧力の強まりが、経営合理化への取り組みを加速させる方向に作用。この結果、設備投資抑制の動きが大企業にも広がり。

②所得の伸び悩み、雇用環境の悪化を背景に、個人消費の低空飛行が持続。

もっとも、景気のスパイラル的悪化は回避の公算。

①I T革命への取り組み本格化を背景に、I Tユーザー産業の情報化投資は、収益悪化にもかかわらず、2001年度も増勢が持続。加えて、家計のI T関連支出は、携帯電話、デジタル家電分野での新商品登場を背景に、当面底堅く推移。

②米国経済が、金融緩和や減税の効果顕在化などを背景に、本年後半持ち直しに向かうとみられるなか、外需の景気牽引力の落ち込みも徐々に減衰。

なお、小泉新政権誕生の影響については、現時点で政策の具体的内容が必ずしも明確でないため不透明感が残るが、各種構造改革が進められれば、実体面では一時的にデフレ圧力が強まる公算大。もっとも、「構造改革が中長期的には日本経済を再生に導く」との期待が高まれば、先行き不安の払拭を通じたマインド面でのプラス効果も期待可能。

本件に関するご照会等は、国内経済クラスター・石川(誠)あてお願い致します。

(TEL:03-3288-4338[直通] E-Mail:ishikawa.makoto@jri.co.jp)

(図表1)2000年度わが国実質成長率予測

(四半期は前期比年率、%)

	1999年度					2000年度				
	4～6	7～9	10～12	1～3	(実績)	4～6	7～9	10～12	1～3	(予測)
実質GDP	6.3	▲ 0.3	▲ 5.8	10.0	1.4	0.4	▲ 2.8	2.5	1.3	1.0
個人消費	8.0	5.5	▲ 12.7	8.2	1.5	0.5	0.1	▲ 2.5	2.1	0.1
住宅投資	32.0	▲ 2.7	▲ 8.0	19.7	5.1	▲ 19.9	1.9	18.8	▲ 8.6	▲ 1.4
設備投資	▲ 4.4	2.6	10.8	7.7	▲ 1.0	▲ 9.6	6.1	29.7	▲ 5.4	4.5
在庫投資	0.0	▲ 0.4	▲ 0.0	0.4	▲ 0.1	0.2	▲ 0.0	0.1	0.4	0.1
政府消費	4.6	5.1	1.2	4.1	4.0	5.0	2.2	3.6	3.1	3.5
公共投資	8.1	▲ 41.9	4.5	6.1	▲ 0.7	16.1	▲ 40.2	▲ 3.0	18.8	▲ 6.7
純輸出	0.0	0.4	▲ 0.0	1.7	0.0	0.5	▲ 0.3	▲ 1.4	▲ 0.8	0.2
輸出	7.3	11.1	11.7	18.8	5.3	17.1	0.9	3.4	▲ 14.1	9.2
輸入	8.9	8.6	15.4	1.6	6.2	16.5	5.3	22.1	▲ 9.7	9.7
名目GDP	▲ 0.0	0.1	▲ 1.5	0.9	▲ 0.2	▲ 0.6	▲ 1.0	0.1	▲ 0.5	▲ 0.5
消費者物価	▲ 0.3	0.0	▲ 1.0	▲ 0.7	▲ 0.5	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 0.5	▲ 0.1	▲ 0.5

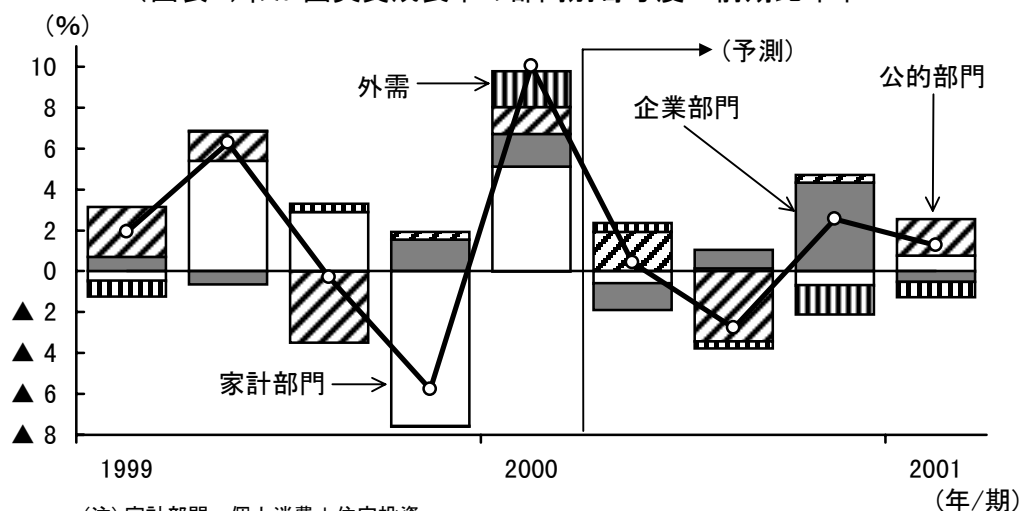
(注1) 在庫投資、純輸出は前期比年率(前年比)寄与度。

(注2) 名目GDP、消費者物価は前年(同期)比。

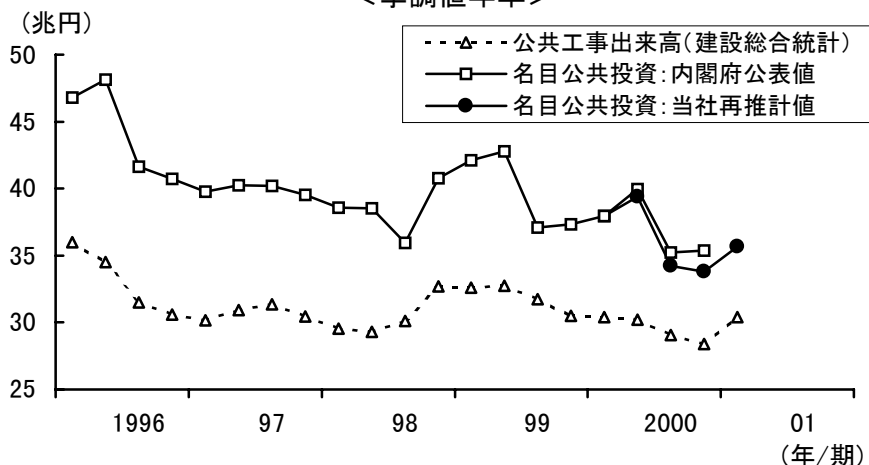
(注3) 公共投資の推計方法変更を受けて、2000年4～6月期以降の公共投資とGDPは当社で再推計。

(予測)

(図表2)わが国実質成長率の部門別寄与度<前期比年率>

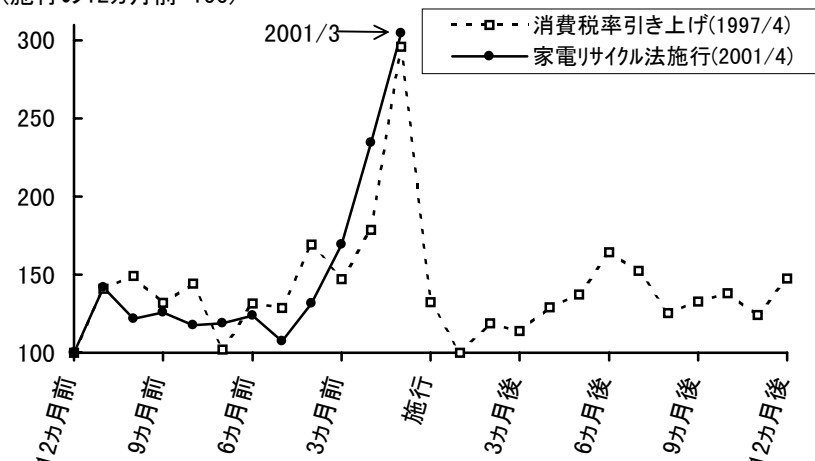


(図表3) 名目公共投資と公共工事出来高(国土交通省『建設総合統計』)の推移<季調値年率>



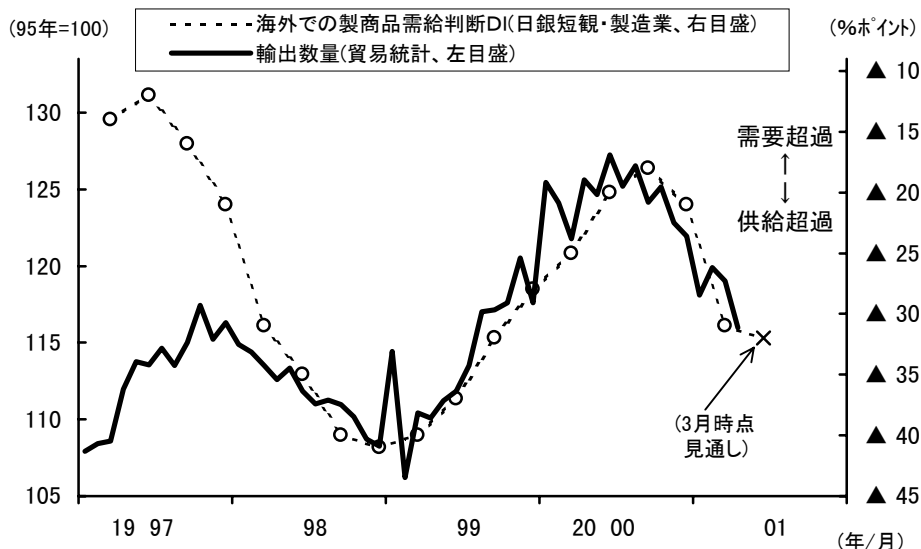
(図表4)冷蔵庫・洗濯機・エアコン・テレビへの支出
 <総務省『家計調査』ベース、実質：1995年価格>

(施行の12カ月前=100)

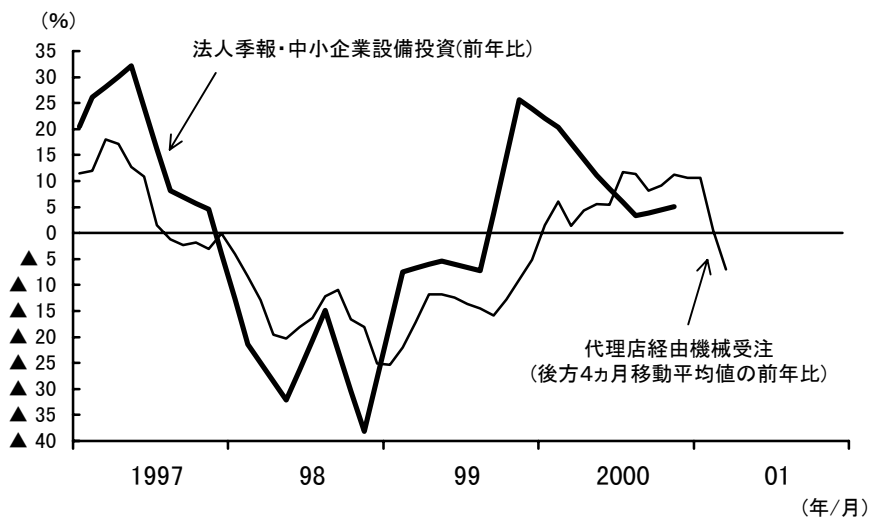


(注) 人員2人以上の世帯における1～3月期の当該4品目への実質支出は、昨年10～12月期対比約2.0倍。1～3月期QE・実質個人消費の前期比+0.5%に対する4品目の寄与度は、+0.4%ポイント程度。もともと、4品目への支出を増やす一方で、他の費目への支出を抑制した動きもみられたことから、「家電リサイクル法施行に伴う1～3月期個人消費への押し上げ効果」としては、上記の値対比小さい。

(図表5)日銀短観・海外での製商品需給判断DIと輸出数量



(図表6)中小企業設備投資関連指標の推移



(注) 法人季報設備投資は、各四半期の中心月にプロット。

(図表7) GDP統計予測表 <太字が当社推計値>

実質GDP(四半期は季調値年率、単位:10億円)										
	個人消費	住宅投資	設備投資	民間在庫	政府消費	公共投資	公的在庫	輸出	輸入	
1998年度	518380.9	285094.0	19515.2	81958.9	▲ 289.8	79998.1	40704.6	0.3	51864.3	40464.7
1999年度	525696.0	289454.2	20504.1	81102.3	▲ 698.9	83202.8	40421.7	87.4	54605.7	42983.3
2000年度	531161.2	289710.9	20218.1	84768.3	▲ 13.7	86137.5	37717.4	120.8	59647.9	47146.0
2000/ 1～3	531437.2	289823.2	20977.0	83288.1	▲ 464.2	84219.6	39989.5	180.3	57523.4	44099.7
4～6	532011.4	290194.1	19846.1	81205.3	▲ 171.4	85244.6	41511.1	159.3	59840.7	45818.4
7～9	528275.6	290289.9	19938.4	82419.7	▲ 205.5	85703.1	36510.3	52.1	59977.4	46409.8
10～12	531608.4	288488.8	20816.4	87949.1	▲ 110.6	86461.3	36231.0	72.3	60486.7	48786.6
2001/ 1～3	533282.1	289963.1	20356.0	86740.9	408.4	87116.6	37821.8	192.3	58238.7	47555.7

実質GDP(前期比、民間在庫投資・公的在庫投資は前期差、単位:%)										
	個人消費	住宅投資	設備投資	民間在庫	政府消費	公共投資	公的在庫	輸出	輸入	
2000/ 1～3	2.4	2.0	4.6	1.9	535.9	1.0	1.5	251.9	4.4	0.4
4～6	0.1	0.1	▲ 5.4	▲ 2.5	292.8	1.2	3.8	▲ 21.0	4.0	3.9
7～9	▲ 0.7	0.0	0.5	1.5	▲ 34.1	0.5	▲ 12.0	▲ 107.2	0.2	1.3
10～12	0.6	▲ 0.6	4.4	6.7	94.9	0.9	▲ 0.8	20.2	0.8	5.1
2001/ 1～3	0.3	0.5	▲ 2.2	▲ 1.4	519.0	0.8	4.4	120.0	▲ 3.7	▲ 2.5

実質GDP(前期比年率、民間在庫投資・公的在庫投資は前期差、単位:%)										
	個人消費	住宅投資	設備投資	民間在庫	政府消費	公共投資	公的在庫	輸出	輸入	
2000/ 1～3	10.0	8.2	19.7	7.7	535.9	4.1	6.1	251.9	18.8	1.6
4～6	0.4	0.5	▲ 19.9	▲ 9.6	292.8	5.0	16.1	▲ 21.0	17.1	16.5
7～9	▲ 2.8	0.1	1.9	6.1	▲ 34.1	2.2	▲ 40.2	▲ 107.2	0.9	5.3
10～12	2.5	▲ 2.5	18.8	29.7	94.9	3.6	▲ 3.0	20.2	3.4	22.1
2001/ 1～3	1.3	2.1	▲ 8.6	▲ 5.4	519.0	3.1	18.8	120.0	▲ 14.1	▲ 9.7

実質GDP(前年比、民間在庫投資・公的在庫投資は前年差、単位:%)										
	個人消費	住宅投資	設備投資	民間在庫	政府消費	公共投資	公的在庫	輸出	輸入	
1998年度	▲ 0.6	1.3	▲ 10.4	▲ 5.2	▲ 3263.9	2.5	1.8	▲ 218.7	▲ 3.7	▲ 6.6
1999年度	1.4	1.5	5.1	▲ 1.0	▲ 409.1	4.0	▲ 0.7	87.1	5.3	6.2
2000年度	1.0	0.1	▲ 1.4	4.5	685.2	3.5	▲ 6.7	33.4	9.2	9.7
2000/ 1～3	2.6	2.1	8.7	4.2	21.2	3.8	▲ 7.7	42.5	12.3	8.5
4～6	1.2	0.1	▲ 3.3	2.7	60.6	3.8	▲ 6.6	10.4	14.6	10.4
7～9	0.4	▲ 1.1	▲ 2.5	3.3	170.6	3.1	▲ 6.9	▲ 11.5	12.0	9.5
10～12	1.8	0.8	3.5	7.5	225.2	3.6	▲ 8.2	24.7	9.7	11.1
2001/ 1～3	0.8	0.5	▲ 3.1	4.2	228.8	3.5	▲ 4.8	9.8	1.3	7.8

	実質GDP・前期比年率への寄与度(%ポイント)					実質GDP・前年比への寄与度(%ポイント)				
	内需			外需		内需			外需	
		民需	官公需				民需	官公需		
1998年度						▲ 0.6	▲ 0.7	▲ 1.2	0.5	0.2
1999年度						1.4	1.4	0.8	0.6	0.0
2000年度						1.0	0.9	0.8	0.1	0.2
2000/ 1～3	10.0	8.2	6.8	1.3	1.7	2.6	2.1	2.2	▲ 0.0	0.5
4～6	0.4	▲ 0.0	▲ 1.9	1.9	0.5	1.2	0.5	0.3	0.2	0.6
7～9	▲ 2.8	▲ 2.4	1.0	▲ 3.5	▲ 0.3	0.4	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.0	0.5
10～12	2.5	4.0	3.6	0.4	▲ 1.4	1.8	1.7	1.9	▲ 0.1	0.1
2001/ 1～3	1.3	2.0	0.2	1.8	▲ 0.8	0.8	1.3	1.1	0.2	▲ 0.5

	名目GDP			GDPデフレーター	
	(季調値 年率、 10億円)	(前期比、 %)	(前年比、 %)	(原数値、 95年 =100)	(前年比、 %)
1998年度	514456.6		▲ 1.1	99.2	▲ 0.5
1999年度	513682.5		▲ 0.2	97.7	▲ 1.5
2000年度	511139.1		▲ 0.5	96.2	▲ 1.5
2000/ 1～3	517396.2	2.2	0.9	95.9	▲ 1.7
4～6	514670.4	▲ 0.5	▲ 0.6	98.0	▲ 1.8
7～9	507923.8	▲ 1.3	▲ 1.0	94.6	▲ 1.4
10～12	508358.0	0.1	0.1	97.6	▲ 1.7
2001/ 1～3	514837.3	1.3	▲ 0.5	94.7	▲ 1.2